

2012年4月6日

VOL. 65

# とっとり・グローバルウォッチ

とっとり国際ビジネスセンター情報誌

## 食品商談会in山陰 2012を開催しました 日本企業40社と海外バイヤー13社がビジネスマッチング

3月12日（月）、山陰地方を中心とした中国地域の農林水産品・食品の輸出促進事業の一環として、ジェトロと（財）鳥取県産業振興機構が共同で食品商談会を開催した。計7カ国・地域から総計13社の海外バイヤーが参加し、このうちジェトロが招聘したバイヤーは6カ国・地域から8社、当機構が招聘したバイヤーは2カ国5社であった。

ジェトロが招聘したバイヤーは、3月6日～9日に開催された「FOODEX JAPAN」（幕張メッセ）会場内で、ジェトロ主催の商談会に参加したバイヤーの一部である。山陰における本商談会については、当機構と連携して開催することでより多くのバイヤーを招聘し、多くの日本食品メーカーとの商談の実施が可能となった。ジェトロと当機構では、見込みのある案件が1件でも多く成約に結びつくよう、引き続きフォローアップを行う。

### ■商談会開催結果

日時：2011年3月12日（月）10:00～17:45

場所：米子全日空ホテル「飛鳥の間」（米子市久米町53-2）

主催：ジェトロ鳥取、松江、広島、岡山、山口

共催：（財）鳥取県産業振興機構

後援：鳥取県、島根県

参加社数：

海外バイヤー13社（米国、カナダ、フランス、エジプト、イスラエル、韓国、台湾）

日本側40社（鳥取県20社、島根県10社、広島県6社、岡山県3社、兵庫県1社）

商談形式：バイヤーごとのブースに日本食品メーカーが訪問する形式。一つの商談は40分間で、昼食時のサンプル試食会と商談終了後の自由商談時間も設けた。全112商談。商談件数と成約および成約見込み：（海外バイヤー側のアンケート結果による）

	バイヤー数	商談件数	成約数	成約見込
全体	13	112	4	53
ジェトロ招聘バイヤー	8	68	1	27
当機構招聘バイヤー	5	44	3	26

### ■参加者の声

- ・具体的なニーズが直接聞けて、課題を把握できた。
- ・本来なかなか会えないバイヤーと一度に商談ができてよかった。
- ・地方にいながら海外バイヤーと商談できたことは大変ありがたく、今後も期待する。



【とっとり国際ビジネスセンター 早川】

### 目次

食品商談会in山陰2012 を開催しました	P 1
最新の上海 ～現地レポート～ 49	P 2
現地発！ 台湾月刊レポート 58	P 3 P 4
事務所移転のお知らせ	P 4
FOOD EXPO 2012 参加者募集について	P 5

### 世界の祝日 5月

- 中国 4日 青年節
- 香港 1日 労働節
- 韓国 1日 労働者の日  
5日 子供の日  
28日 釈迦誕生日
- タイ 1日 メーデー
- シンガポール 1日 勤労の日  
5日 ベサックデー
- ベトナム 1日 メーデー
- 米国 28日 戦没者祈念日

# 最新上海 ～現地レポート～ 49

## 日本輸入食品販売の現状

東関東大震災発生から一年余りの月日がたった。今年に入り、上海でも震災復興イベントをよく目にするほか、3月11日には追悼イベントも開催されており、このような政府と企業の尽力が実を結んで、観光産業においては、震災前の活気を取り戻している。一方、食品の輸入については、回復傾向にあるとはいえ、依然として日本食品輸入の困難な状態が続いている。今回は、日本食品に対する規定上の緩和の経緯と小売現場をご紹介します。

### ■日本食品輸入に対する法規制の流れと現状

震災発生直後の規制状況については、本誌第56号（2011年7月13日発行）でご紹介した。現在は、昨年11月24日に中国国家品質監督検査検疫総局から発表された対中輸出食品に関する輸入手続と条件が引き続き採用されている（下表参照）。この発表では、10都県以外からの食品輸入範囲が拡大され、これを契機として10都県以外からの日本酒や焼酎などの酒類、お菓子、調味料などの販売が徐々に回復をみせてきた。

対象地域	対象品目	規則内容
10都県（福島、群馬、茨城、栃木、宮城、新潟、長野、埼玉、東京、千葉）	食品、飼料	輸入停止
10都県以外	野菜及びその製品、乳及び乳製品、水産品及び水生動物※、茶葉及びその製品、果実及びその製品、薬用植物産品	必要書類 ①中国の放射性物質基準に適合することの証明書 ②産地証明
	その他食品及び飼料	必要書類 ①産地証明

※水産品及び水生動物については、水産庁において証明書を発行

参考：[http://www.maff.go.jp/j/export/e\\_shoumei/shoumei.html#china](http://www.maff.go.jp/j/export/e_shoumei/shoumei.html#china)

### ■現地調査

今回、現地調査先として訪問したのは、香港そごうが出資する上海で最も有名で集客力のある日系スーパーである上海久光百貨店の地下一階食品売り場だ。上海久光百貨店営業部マネージャーの七尾氏に現在の売り場における日本食品について伺った。

#### 《日本産輸入食品について》

現在店舗で販売されている日本産輸入食品のアイテム数は震災後の2～3割程度。減少分の7～8割は欧米や韓国、台湾、東南アジアからの輸入品が取って代わった。ちなみに、震災後の販売商品の様変わりによる売り上げへの影響はない。現在、販売されている日本食品の種類は、日本酒や焼酎などの酒類、お菓子、調味料、果物（りんごと梨）など。日本のお茶や乳児用粉ミルクなどはこれまで人気商品であったが、被災地10都県以外からのものであれば輸入可能な規定にはなっているものの事実上は輸入できない状況のため、一切販売していない。

#### 《日本産果物の販売状況》

上記の通り、規定上輸入可能な被災地10都県以外の茶葉や乳製品が事実上輸入停止となっている中で、果物（りんごと梨）の輸入については、規定どおり、規定された必要証明書を提出すれば輸入されている。現在、店舗では、青森県の「陸奥」や「王林」など200元（日本円で約2800円）前後の高級リンゴが多種販売しており、一番人気の「王林」は完売している。今、最も入荷したいのは日本の豊水梨。最近、味がよく日本産よりも安価な韓国産豊水梨が入っているが、高品質で美味しい高級な日本の豊水梨を求めている。

### ■おわりに

日本から中国への輸入量が減少しているため、小売店舗の輸入食品に占める日本食品のシェアは低くなっているが、上海の消費者の間で、日本食品に対する不信感はほとんどなくなっているようだ。高品質の商品と的確なPRがあれば値段が高くても消費者のニーズは必ずある、という七尾氏の言葉は、震災で打撃を受けた企業とこれから中国市場を開拓しようとする日本企業にとって心強いエールとなるに違いない。

（備考）上海久光百貨店

住所：上海市静安区南京西路1618号 地下1階食品売り場 ([www.jiu-guang.com](http://www.jiu-guang.com))

\*本誌の内容は、3月30日時点のものです。



久光百貨の果物売り場の様子



# 現地発！台湾月刊レポート 58

## 最近の台湾の話題

### ■東日本大震災追悼復興レセプションでの一コマから

3月12日、台北にて交流協会台北事務所主催「東日本大震災追悼復興レセプション」が開かれた。同時に高雄でも開催された。その模様をまず書きたい。式は、今井交流協会台北事務所代表挨拶にはじまり、台湾側からは馬英九総統も出席した。会場内では、被災地芸能として太鼓の披露、被災地の産品、日本酒・観光PR等が行われた。私は、台湾側で日本酒担当としてお手伝いした。日本からは、福島から蔵元さん2社が派遣され、馬総統に福島の日本酒を贈呈し、味と安全性をアピール。水産物の提供や、風評被害対策のパンフレットなどの提供をし、参加者にも味と安全性を訴えた。

前日の3月11日に日本で行われた震災追悼式典では、以下の事件が発生していた。以下、産経新聞2/14より抜粋。

「台湾への非礼 日本人として恥ずかしい」

政府が主催した東日本大震災の一周年追悼式典で、台湾の代表が指名献花から外されるという扱いを受けた。震災で93の国・地域、国際機関から寄せられた義援金や救援物資は集計分で計175億円だが、これに含まれない台湾は単独で200億円超もの義援金を寄せた。日本政府の対応は、人から受けた恩を忘れない日本の精神からも恥ずべきものである。台湾の代表は「民間機関代表」と位置づけられ、各国代表らに用意された会場1階の来賓

席ではなく、2階の一般席に案内された。この問題が取り上げられた参院予算委員会で野田佳彦首相は「(台湾の人々の) お気持ちを傷つけるようなことがあったら本当に申し訳ない」と陳謝した。…台湾では日本統治時代(明治28年～昭和20年)に教育を受けたいわゆる「日本語世代」を含め、日本に親近感を抱く人が少なくない。馬英九総統は東日本大震災発生の翌日に緊急援助金を発表した。集まった義援金の大半は心がこもった個人の寄金である。人口2,300万人の台湾から日本への観光客は一昨年は138万人、震災の昨年でさえ114万人にものぼった。日本に支援を差し伸べてくれた隣人への非礼に対する謝罪の意を、政府はきちんとした行動で示すべきだ。それが、復興に向けたけじめである。以上。

私もそのとおりに思う。一方、誰もこの問題に気づいていないようだったが、台北での馬総統側のスピーチにも、非礼と思われる部分があった。台湾側の政治家、スタッフの紹介と慰労をしたのだが、日本側参加者氏名を挙げなかったのだ。前日の報復とも思われる冒頭であった。もちろん日本側の問題のほうが大きいとは思いますが、台湾側国民党政権も大人気ないと感じた。政府間は、冷風が吹いても、少なくとも民間レベルでしっかりと絆を繋げたいと思う。防衛上も、市場としても、産業パートナーとしても大事な台湾なのであるから。

《次頁へ続く》



馬総統スピーチの様子



台湾救助関係者も招待



馬総統と今井代表。微妙な雰囲気。



会場にて東北産日本酒提供&アピール

次のニュースには、私も驚いた。以下、ロイターより抜粋。

シャープは3月27日、台湾の鴻海（ホンハイ）精密工業を中心としたグループ会社4社と資本・業務提携すると発表した。不振の液晶事業の再建がねらい。同グループがシャープに9.8%を出資する事実上の筆頭株主になるとともに、大阪府堺市にある液晶パネル工場の株式を共同保有して、両社で運営する。鴻海グループへの技術流出について奥田次期社長は「特許はシャープが保有するので心配ない」と述べた。以上。

奥田次期社長の認識は甘い。台湾企業は、白馬の王子では決してない。以前、韓国でもサムスンに日本から技術流出が発生し、現在の日韓逆転現象が起きたことが、日台間でも発生することが危惧される。日本側メーカーがそこまで傷んでいたのかと、言葉は悪いが、下請けの下請けになる暗澹となるニュースである。逆に言えば、台湾は元気である。台北にいると人の表情、店の雰囲気等、活気を感じる。台湾経済研究院は3月26日、景気動向調査の結果を発表。輸出、国内消費とも旧正月後は回復して、2月の企業の経営状態は1月より好転し、製造業とサービス業の経営環境指数は2カ月連続して上昇とのこと。一昨日、ガソリンスタンドには、ガソリン価格上昇による給油を待つ長蛇の車列が発生した。インフレ懸念、経済減速の恐れも指摘されているが、マインドは明るいように思う。一方、東京に帰ると電車の中で人々の表情が暗く感じる。開き直って改革を進めないと、マインドが明るくならないように思う。

#### ■食の安全問題

台湾でまた食の安全性が疑われる事が発生した。これに伴い現在、台湾吉野家では、牛丼の発売を停止した。牛肉ラクトパミン添加問題である。台湾政府が飼料添加物を使用した米国産牛肉を解禁する方針を3月5日に示したことに発する。この飼料添加物は牛肉の赤身を増やすラクトパミンで、豚肉まで影響を受けデモが発生した。牛肉の輸入が解禁されればラクトパミン入り豚肉の

輸入にもつながるとの懸念が広がった。実際、台湾の豚肉価格は大幅に下落している。ラクトパミンは健康に与える影響が懸念されており、台湾政府は牛肉に残留したラクトパミンの量に基準を設けるほか、内臓の排除や産地表示の義務化などの条件を設ける方針を示している。肉好きな台湾友人たちも、すっかり牛肉を食べなくなった。台湾吉野家でもラクトパミン入り牛肉が発見され、米国産牛肉の使用停止措置を行った。それにともない牛肉の必要量が確保できず、発売停止につながったのだ。ちなみに、塩酸ラクトパミンとは、豚の仕上げ期に3～4週間（5～10ppm）飼料に添加する動物薬で、飼料の中の栄養成分を有効に利用し、生産性を改善させる。世界の主要な養豚生産国では豚の飼料節減を可能にする畜産資材として高く評価されている。1頭あたり、飼料12Kg節約、窒素排泄20%減少、糞量12Kg減少することができる。出典メディア意見交換会レポート「動物薬 塩酸ラクトパミンの事例から」とのことで、このHPで見ると日本での使用は、認められているらしい。

参考：<http://www.life-bio.or.jp/topics/topics382.html>

私も知らなかったこの添加物、日本でも台湾でも注視する必要がある。

## 公告

本公司因牛肉貨源  
供應不足，暫停提  
供牛肉系列商品的  
販售，造成您的不  
便敬請見諒。



吉野家のHPより（牛肉系商品販売停止のお知らせ）

【株式会社 富田】

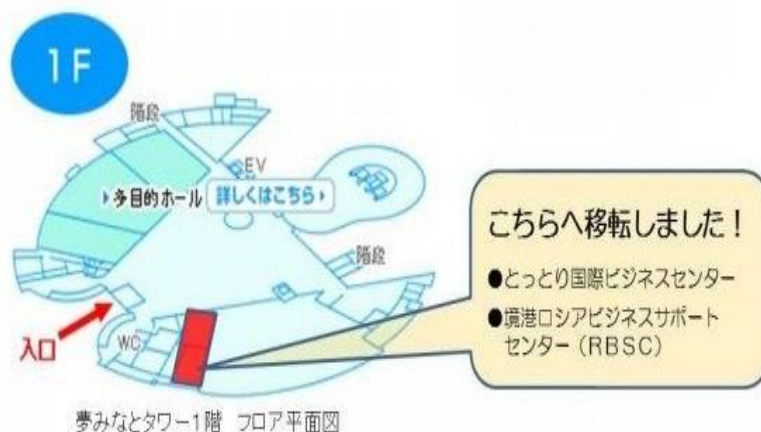
## 事務所移転のお知らせ

とっとり国際ビジネスセンターは、3月28日に事務所を境港市竹内団地の夢みなとタワー2階から同1階へ移転しました。

今後、全ての業務は新事務所にて執り行いますので、ご案内申し上げます。

なお、東部窓口は、これまでと同様、鳥取市若葉台南の鳥取県産業振興機構内に設置しております。

「海外見本市に出展したい」「貿易手続きが分からない」「補助金を活用したい」など、ご相談がございましたら、お気軽にお越しください。



夢みなとタワー1階 フロア平面図

【とっとり国際ビジネスセンター】



# FOOD EXPO 2012参加者募集について

## 香港市場へチャレンジしませんか？

公益財団法人鳥取県産業振興機構では、日本産農林水産物の輸出先として5年連続1位を記録している香港において毎年開催される国際食品見本市「FOOD EXPO（美食博覧）」に昨年に引き続き今年も出展します。

香港では食に対する安全意識が高く、昨年の東日本大震災を境にますます安心・安全で高品質な日本食品が注目されています。香港及び中国華南地域での販路開拓をお考えの皆様にとっては絶好の機会となりますので、是非出展をご検討ください。（但し、当財団の出展については、ジェトロによる出展採択を条件とします。）

### ■FOOD EXPO 2012概要

\*当財団は、ジェトロの日本パビリオン（トレードホール）に出展します。

会期：2012年8月16日（木）～18日（土）3日間

会場：香港コンベンション&エキシビジョンセンター

主催：香港貿易発展局

出展者数：888企業・団体（2011年）、出展国数：19カ国・地域（2011年）、来場者数：395,394人（2011年）

### ■主な当財団出展概要（詳細はホームページをご覧ください）

- ①参加対象企業は鳥取県内に本社、支店、工場など関連施設がある食品関連企業・団体等であることとします。
- ②出品物は、鳥取県産品或いは鳥取県内の加工工場等で加工された製品とします。また、制度上、日本から香港へ輸出・販売可能なものに限ります。
- ③ジェトロの日本パビリオンに2小間（3～4社程度）出展する予定です。



### ■費用負担区分

#### ①当財団が助成する経費

小間使用料、基礎備品料（受付カウンター、商談デスク、椅子、社名版等）

#### ②出展企業負担分

輸出梱包及び展示会場までの通関・輸送経費、関税等公租公課、関係する保険料、追加備品料、展示会終了後の出品物の処理（還送・転送等）に係る経費、社員の派遣に要する経費（渡航費、宿泊料、現地交通費等）、通訳雇用料（ただし、手配依頼先を当機構でご紹介できます）

### ■申込期限

**2012年4月17日（火）17時必着**

とっとり国際ビジネスセンターホームページ（<http://www.tottori-kaigai.com/>）から参加申込書、事前調査票、出品物データシートをダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、出品物と会社概要が分かるパンフレット2部ずつとともに当機構までお申し込みください。

### ■その他

- ・事前に有望バイヤーを鳥取県に招聘し、出展商品に対する評価、改善点等を聞き出し、香港市場ニーズに合わせた商品開発支援を行う予定です。
- ・8月20日（月）香港にて「鳥取県食品商談会in香港（仮称）」の開催を予定しておりますので、併せて参加をご検討ください。商談会の詳細については、詳細が決まり次第、ご案内いたします。（商談会のみ参加も可）

### ■申込・問合せ先

公益財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター（担当：早川）

TEL:0857-52-6757 FAX:0857-52-6782 E-mail: [kaigai@toriton.or.jp](mailto:kaigai@toriton.or.jp)

本誌「とっとり・グローバルウォッチ」では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。

お問い合わせ：公益財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター

《本 部》境港市竹内団地255-3

TEL:0859-30-3161 FAX:0859-30-3162 E-mail: [kaigai@toriton.or.jp](mailto:kaigai@toriton.or.jp)

《東部窓口》鳥取市若葉台南7-5-1

TEL:0857-52-6757 FAX:0857-52-6782 E-mail: [kaigai@toriton.or.jp](mailto:kaigai@toriton.or.jp)